

1. 大町さんのお墓参り

昨年7月8日に亡くなられた「大町正人キャプテン」の一周忌を前に、7月7日（土）のお昼に日本丸合唱団有志、小永井副団長はじめ約20名で青山墓地にある大町家の墓所を訪れました。

墓地の入り口で大町ますみさんと学習院大学の清水さんに出会いました。丁度、午前中に故・畑中良輔氏のお別れ会があったようでした。

大町家の墓所は「忠犬ハチ公の碑」のある「東大教授・上野英三郎博士」（山路さんの大先輩）の墓所の奥に入ったところにありました。

一人ずつ墓前にお線香を手向けてお参りをした後、大町キャプテンが愛された「うみ」を歌って故人を偲びました。（B2・岩尾さん）



2. 第17回定演終了

暑さ寒さも定演まで、のはずが、今年はいつまでも暑いですね。さて、7月17日（土）は、帆船日本丸を愛する男声合唱団の第17回定期演奏会。Weather Sideの8曲、Lee Sideの3曲+5曲、そしてアンコールの2曲。出来や満足度については船員各々、いろいろな思いがあるでしょうが、間違いなく言えるのは、「もっと良い演奏が出来たはず。次はもっと良い演奏にしたい!」ということではないでしょうか。

今年は久々に日本丸法被が登場し、華やかなステージになったのでは。もちろんキャプテンのキャプテン服もお似合いです。



さて、打ち上げの言葉から、いくつかを。

白石キャプテン：家内に「あなた随分ファンが増えたわね」って言われた。横浜を拠点に頑張ろうという気になった。去年までは大町さんがステージの「裏」に居てくれたけど、今年は居てくれなかったため、大いにプレッシャーを感じた。しかし、満員だったことは嬉しく、ガチガチだった自分が丸山さんの靴トークで



溶けた。

ますみさん：白石さんは会うたびに心配だ心配だと言っていたけれど、お話しも良かった。主人も喜んでいる。ただ、来年話せる事が少ないかも。今回は自分なりに心配していた。毎年歌えるかと。みなさんおめでとう。ずっと続くように。

サリーさん：「みんな飲んでるかい?」「イエーイ」「この勢いでやって貰えれば、どんどん良くなるぜ。」

鈴木さん：さらにグレードアップした。曲も難しくなった。リズムもシャープになった。すばらしい。白石さんのおかげで芸術感も出てきた。

ハーモニーフィールズの増山知香さん：ありがとうございました。ヨーロッパからアーティストを呼んで全国で公演してます。ぜひノルウェーの海の男たちと共演して下さい。

3. 総会の開催

7月31日に総会が開催された。まず議長に佐藤さん、書記に杉野さんを選出。報告事項3件、審議事項3件。詳細は杉野さん作成の記録を見ていただきたいが、繰越金の減少、休団の定義、団則の改定、技術の精度の高め方、団員増強などが議論された。

それに続いて、白石キャプテンのお話、そして音楽についての質疑があった。

植木：ハーモニーが崩れる原因は何か?

白石：様々な要因がある。殆どは自信のないところだが、Sailing2の最後はtopが高いのも一因。発声上の問題箇所もある。

山路：どう直せばよいか

白石：縦ずれはあまりない。ハーモニーのずれは練習しかない。バスの自信のないところはダメ。

宮崎：4パートバランスは?

白石：増やしたいのはT1、B2は頑張ってる。

原田：ハーモニーバランス、縦の揃いはシャンティの魅力と矛盾しないか。各パートの個人の声が聞こえすぎないか。

白石：そこだけ切り出すとそうかも知れないが、その人の個性を生かすことの重要性もある。

由本：練習時にもっと立って歌いませんか。

山路：練習時の並びは現状で良いのか。

白石：並びは毎回変わるのがよい。ホールサウンドチェックは4隅の4人でチェックする。

鬼木：一生懸命歌っているが、記憶の衰えはどうしようもない。

ますみ：自分の声を好きになって柔らかく広げてほしい。ゲネプロは少し控えめに。

小永井：大森さんの時間は大丈夫か。

白石：来てくれるはず。

山路：土曜練習も出来ないか。

丸山一：美味くなると味が無くならないか心配。

白石：人生で極められたこと、その哲学を存分に生かしてほしい。横浜のシンボルにしたい。//